

環境研究の基盤整備

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 限られた予算(資源)を有効に活用しつつ、国環研内に留まらない我が国あるいは世界に必要な基盤となるモニタリング事業やデータベース整備事業が順調に進められていると評価する。
- 次のステージ(時代やフェーズなど)の環境研究に必要であろうと判断される例えばモニタリングや各種機器などの整備については、その優先順位に関する考え方についての合意が得られていると推察した。
- データ利用者数や提供者数は有効な評価事項として高く評価したい。

今後への期待など

- 予算が削減されているが、モニタリングやデータベース整備の重要性を、国環研、大学などの関連機関で共同して、政府、さらには国民に向けて丁寧の説明しなければならない。基盤的調査・研究を継続するための組織、研究費の在り方を検討願いたい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①基盤整備については、モニタリング、データベース、環境標準物質、遺伝子資源、藻類株など、大学では体制や継続性などの面に対応できない活動であり、国環研独自の活動ですので、今後も長期的に継続するための組織や研究費の在り方について、引き続き検討して参ります。
- ②モニタリングの観測基盤はすでに他機関との共同研究として活用されておりますが、今後も積極的に活用を進める所存です。データの利活用、地球環境保全にどうつながるか等の視点からの検討についても、引き続き進めて参ります。
- ③政府や国民に向けてのモニタリングやデータベース整備の重要性の説明に関しては、より一層工夫したいと思います。